

平成25年度科学技術関係予算 重点化の方向性について

資料1-3-2

1. 基本的考え方

平成24年度に引き続き、
アクションプランと施策パッケージの2つの制度により、
最重点化・重点化を図る。

最重点

科学技術重要施策アクションプラン

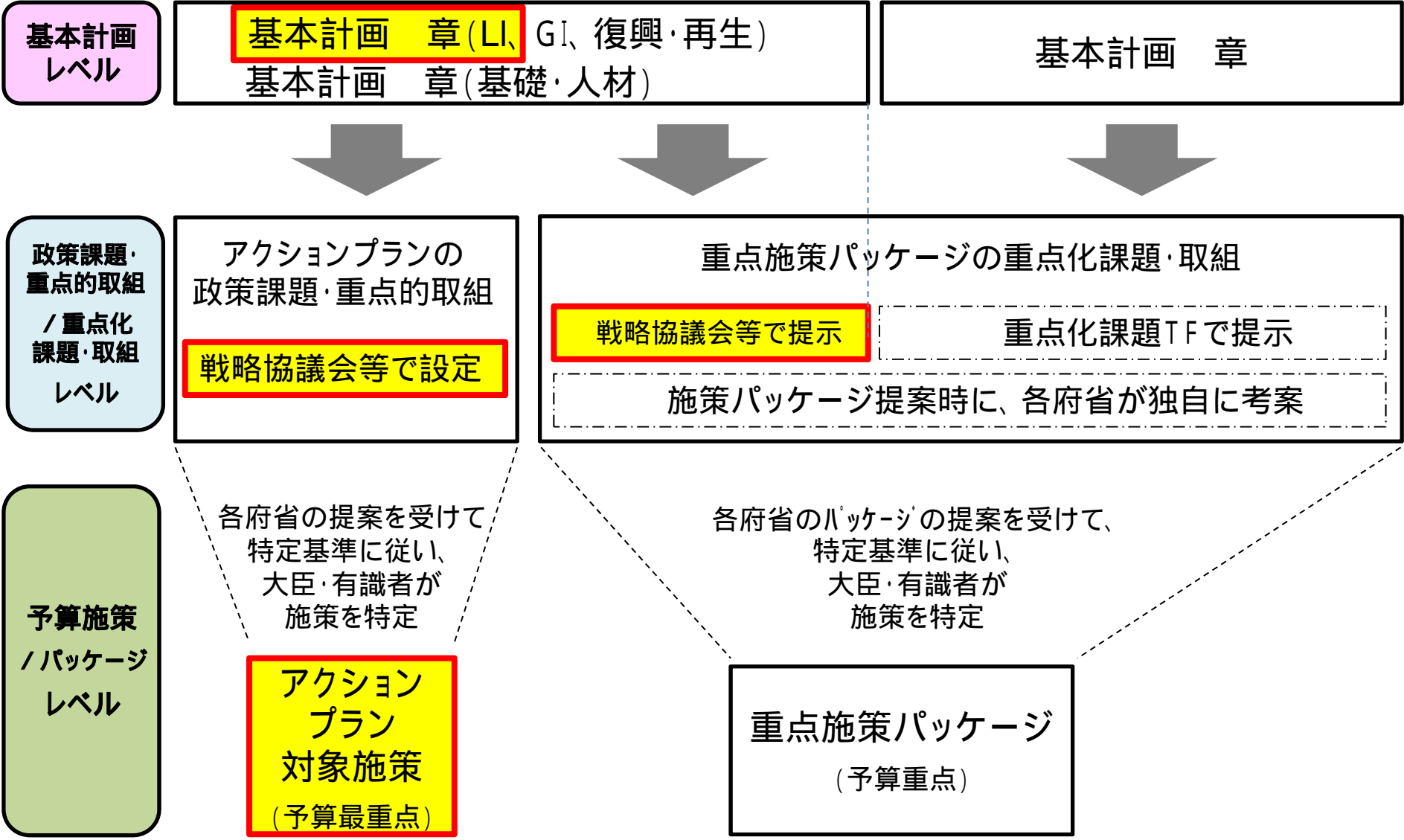
- 総合科学技術会議が最も重要と考える施策の方向性を概算要求前に示すことにより、政府全体の科学技術予算の重点化を誘導

重点

重点施策パッケージ

- 各府省が推進しようとする課題解決に向けた施策パッケージを概算要求後に提案。総合科学技術会議が重点化すべきもの特定し、重点化を誘導

2. 基本計画、政策課題の設定及び予算の重点化の関係



3. アクションプラン、重点施策パッケージの設定の視点

(1) アクションプラン

政策課題

- 総合科学技術会議は、復興・再生、グリーンイノベーション、ライフイノベーション、基礎研究・人材育成の各領域が対象とする様々な課題の中から、国の重要政策における位置付けを踏まえつつ、幅広く政策課題を設定する。

重点的取組

- 総合科学技術会議は、政策課題を解決するための取組のうち、課題解決に向けて顕著な成果が期待できるものであって、国として最重点で推進すべき取組(取組群)を、重点的取組として設定する。

個別施策

- 各府省は、政策課題及び重点的取組に示された内容及び要件に基づき、政策課題の解決に資すると考えられる個別施策を提案する。
- 総合科学技術会議は、提案された個別施策の中から、政策課題の解決に貢献でき、イノベーションの実現に顕著な貢献が期待できる施策について、アクションプラン対象施策として特定する。

2. 平成24年度アクションプランの内容 ライフイノベーション

参考

目指すべき社会の姿	政策課題	重点的取組
心身ともに健康で活力ある社会の実現	先制医療(早期医療介入)の推進による発症率の低下	ゲノムコホート研究と臨床関連情報の統合による予防法の開発(継続)
	がん、生活習慣病の合併症等の革新的な診断・治療法の開発による治癒率の向上等	がんの早期診断、治療技術の研究開発(肺、膵、肝がんは継続)
		糖尿病等の生活習慣病の合併症に特化した予防、診断、治療に関する研究開発(新規)
		うつ病、認知症等の精神・神経疾患の診断マーカーの探索及び画像診断法の開発とそれに基づいた発症予防、早期診断、進行遅延(新規)
	身体・臓器機能の代替・補完	再生医療研究開発(新規)
優れた医療技術の開発促進	医薬品、医療機器、再生医療等の新たな医療技術開発を促進するためのレギュラトリーサイエンスの推進(新規)	
高齢者・障がい者が自立できる社会の実現	介護・自立支援	高齢者・障がい者の機能代償・自立支援技術開発(継続)

重点的取組の検討の視点

1. 重点的取組の設定に当たっての視点

- (1) 期待される効果(経済的効果、社会的効果)が十分に大きく、持続的な成長と社会の発展に貢献するものかどうか
- (2) 期待される効果の発揮に貢献できる取組であるかどうか(特に研究成果の実用化までの段階を見通した実施主体候補等が明確に示されているか)
- (3) 当該分野の国際的位置付け(政策上の位置付け、技術競争力の優位性等)を把握した上で、我が国として重点的に推進すべきものと言えるかどうか
- (4) 緊急性が高い取組かどうか
- (5) 国と民間等との役割分担を考慮した上で、国が主導して実施する必要性が高いものであるか

2. 平成24年度アクションプランで設定した重点的取組を見直す視点

- (1) 他に有効な取組が出てきていないか(そのまま継続する必要性がなくなっていないか)
- (2) 継続したとして、成果が出せない可能性が高まっていないか
- (3) 順調に推移し、もはや後押しを必要としない段階になっていないか

(2) 重点施策パッケージ

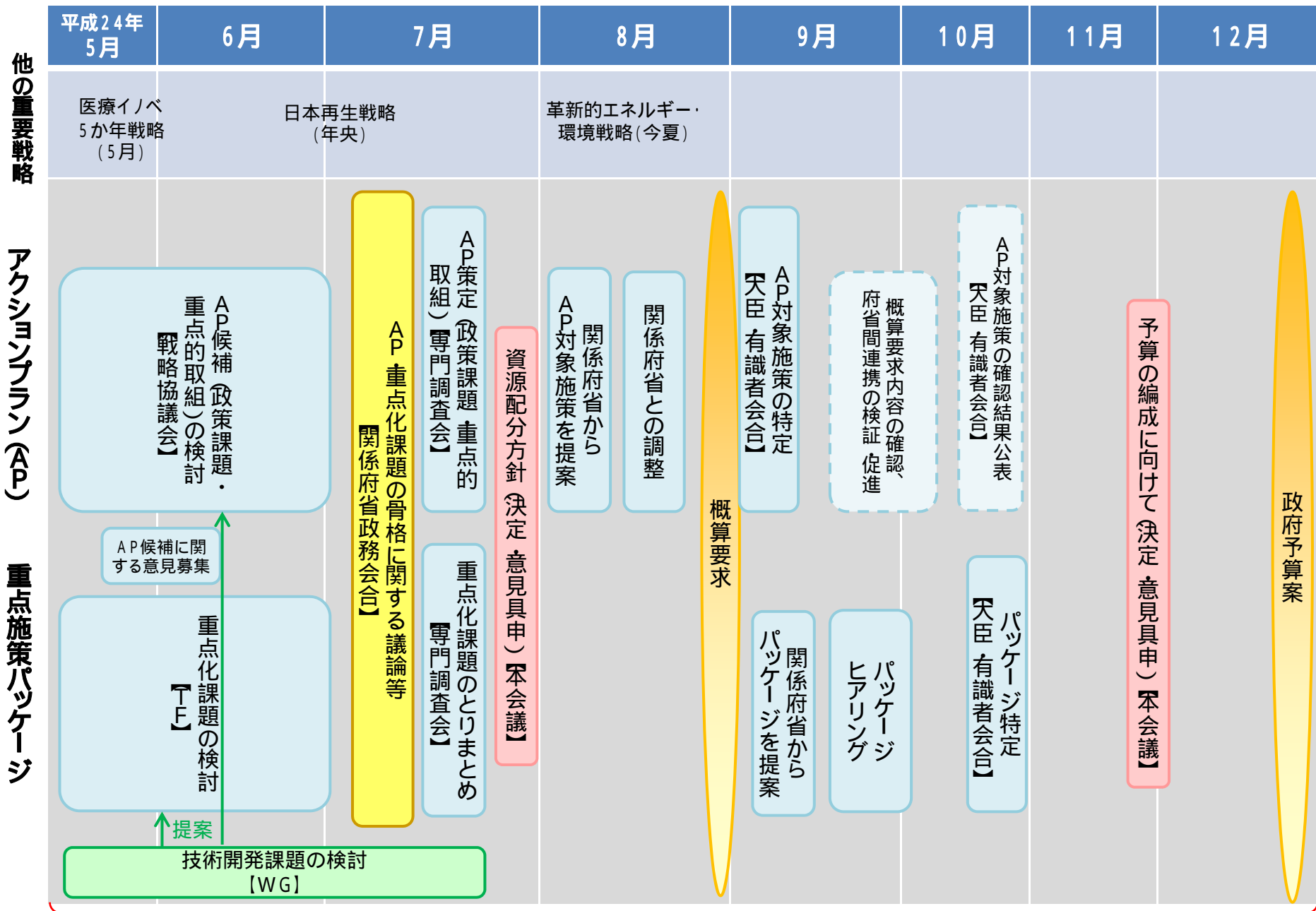
課題

- 各府省は、第4期基本計画を踏まえ、また、アクションプランの状況を見据えて、科学技術を戦略的に活用し、その成果の社会への還元を一層促進することを通じて、解決すべき課題を設定する。

施策パッケージ

- 各府省は、設定した課題の解決に向けて、科学技術の成果の社会への実装までの一連の取組を、施策パッケージとして提案する。
- 総合科学技術会議は、提案された施策パッケージの中から、課題解決に資するか否かの基準に適合しているものを重点施策パッケージとして特定する。

平成25年度予算編成プロセス(案)



大臣・有識者会合で適宜検討・調整し、専調や本会議に報告